

強みを活かして人材不足解消へ!

～誰もが活躍できる会社づくりを目指して～

建設業界では、働き手の高齢化や若年層の担い手不足により 2025 年には約 90 万人の働き手が不足する(※1)と予測されています(建設業の 2025 年問題)。そこで近年注目されているのが、多様な人材を活かす「ダイバーシティ経営」です。沼津市に本社を構えている株式会社スエヒロ工業の取り組みについて、企画推進室長の石山千華(いしやまちか)さんに聞きました。

株式会社スエヒロ工業

1987 年にアスファルト防水専門工事会社として創業。
現在は建物の大規模修繕工事から新築・リフォーム工事、
ヘルスケア・ウェルネス事業まで展開。

HP : <https://www.suehiro-kogyou.co.jp/>

「きれいになる」が 目に見える仕事

スエヒロ工業では、ビルやマンションなどの防水・塗装といった大規模修繕工事を手掛けています。ゼネコンと現場の職人の間に入る、施工管理という役割を主に担っています。

建設業と聞くと力仕事というイメージを抱きがちですが、施工管理は、現場を管理するリーダー的役割であり、スムーズに施工を進めるための調整役でもあります。古い建物がきれいになっていく過程が見えるので、やりがいを感じやすく達成感があります。

「誰もが活躍できる」を目指して

人材不足の課題は日々感じています。施工管理は若い世代が定着せず、人材育成がなかなかできないからです。施工管理という職種のイメージにピンとこない人も多く、労働環境が厳しいとか、男性中心の業界だと思われて、女性から避けられがちな面があります。

こうした課題を解消するため、2018 年から本格的に労働環境の改善に取り組みしました。まずは女性や子育て世代が働きやすい環境であ

ることを可視化するため、以前から取り組んできた子連れ出社や勤務時間の繰り上げ・繰り下げの制度等を行動計画で明文化し、2021 年にえるぼし(※2)で「2つ星」を取得しました。えるぼしを取得後、「誰もが活躍できる」に目標を引き上げ、LGBTQ+当事者も働きやすい職場づくりに取り組みました。結果、PRIDE 指標(※3)2023 で、建設中小企業では唯一、最高評価の「ゴールド」を獲得することができました。

これまで女性の採用は中途の事務職ばかりでしたが、取組の成果もあり、2024 年に新卒の女性が入社しました。これからさまざまなライフステージの変化を経験するであろう人材を雇い入れたことで、より一層会社として従業員の人生を支えていく責任を感じました。

入社後、建設ディレクター(※4)育成講座の受講を勧めました。施工管理者として働き始めても、いつか生活が変化したら、現場に出て働くことが難しくなるかもしれないと考えたからです。スムーズにデスクワークに移行できる体制が整っていれば、たとえライフステージが変化したとしても、退職せずに働き続けられるかもしれません。また、パソ

コンを使った文書作成も施工管理の仕事です。このため、早い段階で書類作成に必要なスキルを得れば、事務処理能力が高まり、現場での吸収力も上がると考えています。

現在、新卒入社も含め、女性の施工管理者は二人います。修繕工事は住民がすでに住んでいるアパートや団地の施工に入るのですが、在宅中のの人にとっては、女性の施工管理者がいると安心感があるようです。性別で区別する社会ではなく生きてきていますが、建設業にも女性が活躍できる場を築いていくことが必要だと感じます。

「女性アスリートのキャリア支援」という新たな取組

女性アスリートのキャリア支援に取り組んでいる「Next・One」への協賛を2023年から始めました。きっかけは、Next・Oneの代表から聞いた話です。「アスリートはスポーツのキャリアを一生懸命追う中で、競技を引退した後、の人生を具体的に描けない人が少なからずいる。さらに、アスリート自身が『働き方について自分の要望を企業に求めることはわがままだ』『自分が希望する時間では正社員で働かせてもらえないだろう』と思いつ



女性アスリートの大学生たちによる会社見学の様子

み、自ら職業選択の幅を狭めてしまう人もいる」と。女子スポーツは男子スポーツと比べ興行収入が低く、競技期間も短いと言われています。また、社会人としてキャリア形成する過程でも、男女の賃金格差や雇用の問題に悩まされることがあります。そこでこの話を当社の代表にも共有し、女性アスリートを支援したいと考えました。

協賛をきっかけに、女性アスリートの大学生たちを招いて会社見学を実施しました。勝負の世界で生きてきたアスリートにとって、成果が目に見える施工管理の仕事は、競技に通じる部分がある、という話をこの

ときにしました。見学後のアンケートで、参加者全員が「建設業のイメージが変わった」と回答しました。今まで知る機会のなかった業種・職種でも、今の自分の生活にリンクする部分があることを知ってもらい、企業選択の一つに加えてもらえるような会社になれたらと思います。

働く人の強みを活かす採用

「誰もが活躍できる会社づくり」を目指して労働環境の改善に努めた結果、4年間で従業員数が約1.6倍になり、2023年には売上げ過去最高額を更新しました。

雇用する側とされる側が一緒に考えていける関係性を築くことができれば、働き続けたいと思う従業員が増えると信じています。研修制度や資格取得のサポート、勤務時間の調整など、従業員の希望にはできるだけ応えていきたいです。そして、この仕事の魅力を感じてもらい、情熱を注げる新たな担い手が建設業界全体に増えていけば嬉しいのです。

※1 国土交通省「建設産業の現状と課題」より
※2 「女性活躍推進法」に基づき、一般事業主

行動計画の策定・届け出を行った事業主のうち、女性の活躍促進のための実施状況が優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度

※3 一般社団法人 Work with Pride が策定する職場におけるLGBTQ+への取組の評価指標。

※4 一般社団法人建設デレクター協会による民間資格。ITとコミュニケーションで現場とオフィスをつなぐ新たな職種として近年注目されている。

取材を終えて

人材不足の現代では、企業は就職希望者を選ぶ側から選ばれる側へ、いわゆる「売り手市場」へと変化しています。「この会社で働きたい」と思ってもらうためには、どんな人も活躍できる環境づくりに積極的に取り組むことと、従業員の強みを活かそうとする会社の意識が重要です。従業員が生き生きと働く環境をつくることができれば、就職希望者も次第に増えていくことでしょう。

アニメーションで描き出す ジェンダー問題

ジェンダーに基づく偏見や差別的な発言が、社会問題になっています。特に、誰でも簡単に情報発信できるSNSは、意図せず人を傷つけるリスクも潜んでいます。

そこで今回は、性暴力などジェンダーに関する問題をテーマにアニメーションを制作し、『ねっとわあく』の元編集員でもある袴田くるみさんに、作品制作で気をつけていることや、自分の考えを多くの人に発信することへの思いを聞きました。

はかまた
袴田 くるみ さん プロフィール



アニメーション作家。静岡県在住。日本大学芸術学部映画学科卒業。『タイムマシン』で「あいち国際女性映画祭 2019」アニメーション部門グランプリ、「2019 年西東京市民映画祭」奨励賞、『ジョディ』で「あいち国際女性映画祭 2022」アニメーション部門観客賞、「那須ショートフィルムフェスティバル 2022」審査員特別賞を受賞。2025 年 1 月「はままつ映画祭」で『ジョディ』上映。

YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCcvzeXHdblsFkmAHAj43Z4A>

社会人になってから 実感したことをテーマに

高校生の頃から一人で人形のアニメーションを作っていました。私はもともと人形アニメーション作品が好きで、CGや実写では再現できない奇妙な動きをとて面白く感じていました。大学では映像制作を学び、人形アニメーションのほか、ドキュメンタリーや実写の劇映画も課題で制作しました。在学中は、自分が好きなものにもっとすぐに向かえていたように思います。メッセージを伝えるというよりは、映像を作るのがとにかく好きという気持ちでした。好きなものだけ考えていられる

安全な環境があったおかげだと思います。

卒業後は地元の静岡県に戻って、アニメーションとは別の仕事と両立しながら、作画・脚本・声優の選定など、ほぼ一人で制作活動を続けています。

ジェンダーに関することをテーマに作品を作り始めたのは、大学を卒業してから1、2年くらい後だったと思います。きっかけは、学生時代に受けたジェンダーに関する映画史の授業でした。当時は興味深く感じたものの、自分にも関係がある題材という実感はそんなにありませんでした。社会人になってから、世の中にはジェンダーに関する問題がたくさんあると知り「これが授業で言っていたことだったんだ」と実感したのも大きかったと思います。こんなに大切な問題が今まで見えていなかったのか……という反省もありました。

今は自分が知らなかったこと、反省しなくてはいけないと感じたことを作品にしています。そもそも私は自分の意見や考えを言葉で伝えるのが得意ではありません。だからアニメーションを通して自分の考えを伝えていければと思っています。

作品解説

『タイムマシン』(2019年)や『ジョディ』(2021年)は性暴力をテーマにしています。声をあげられない被害者の現状や、性暴力をよく理解せずに発言した言葉が人を傷つけてしまうことがあると、#MeToo運動(※3)のニュースや本で知りました。

『陳腐な男』(2018年)は『エルサレムのアイヒマン』(※4)という本を読んだことがきっかけで生まれました。本の中でアイヒマンは、「信念や思想がなく、極めて平凡。ただ忠実に職務を遂行した人物」として書かれています。『陳腐な男』では、彼をイメージした「ロボットを無慈悲に破壊し続ける人物」を登場させ、深くものを考えずに行動してしまうことの危険性について表現しました。



『タイムマシン』

- ※3 2017年アメリカの俳優がSNSで呼びかけたことがきっかけで始まった。性暴力やハラスメントの被害を共有し、社会問題として意識を高める国際的な運動。
- ※4 ドイツ出身の哲学者ハンナ・アーレントによるアドルフ・アイヒマンの裁判の傍聴記録。アイヒマンはナチス・ドイツでアウシュビッツ強制収容所へのユダヤ人大量移送に関わった中心的人物として裁判にかけられた。

制作の際に 気を付けていること

私の作品には、「性暴力」をテーマにしたものがあります。作品を発表するにあたり、暴力などのハラスメントで傷ついてしまった人に対して、トリガー(※1)になってしまっ
てはいけないという心配があります。しかし、ストーリーの中で性暴力などをあいまいに描写したり、きれいごとにしたりしてはいけない
と思うので、そのバランスに気を付けています。

例えば、ストーリーの舞台を架空の国にしたり、絵柄はかわいく親しみやすいものにしていきます。セリフは英語にし、日本語の字幕をつけたりもしています。ステレオタイプ(※2)な表現に縛られないように心掛けていますが、一方で登場人物が置かれた社会的な状況や個性を考慮しています。例えば、女性の登場人物が、セリフの語尾に「〜だわ」「〜わよ」のような女性的な表現を使うこともあります。

ジェンダーや性に関する問題についてもっと理解を深めようと思い、2020年に『ねつとわあく』の編集員として活動しました。性教育を楽しみながら学んで考える講

座を、子どもたちに実施している団体を75号で取材しました。この取材を通して、性の問題は遠ざけてはいけないと気付きました。普段から話題にしていれば、性に関する悩みがあったとしても、周りに相談しやすい環境がつくれるのではないかと思います。

※1 引き金の意。ここでは過去の経験を思い起こさせてしまうきっかけとなること。
※2 固定観念として定着してしまっただイメージ

映像の力を信じて

制作活動が続けていくのは大変ですが、「仕事にならなくても作り続けなさい」という大学卒業時に先生からかけてもらった声が支えになっています。また、映画祭に出品したり、SNSでいろいろな人に作品を見てもらう機会を作ること、制作を続けるモチベーションに上げています。

最近の作品を見た人からは、「重いテーマだけど清廉さがある」という感想をもらいました。人に見てもらうことを前提として作っている以上は、少しでも「見てよかった」と思ってもらえるものにしたいです。

『ジョディ』が「あいち国際女性映画祭2022」でアニメーション部門観客賞を受賞した時、本当にあ

りがたいと思いました。女性映画祭なので、ジェンダー問題に関心の高い観客が多かったという背景もあつたとは思いますが、作品の中で私が意図したことを観客の皆さんが理解してくれたというのはとても嬉しいです。

当時はジェンダーに関する問題に関心はあっても、なかなか人と話す機会も勇気もなく、専門的な知識があるわけでもない私がこういう作品を作って良かったんだろうか、という不安がありました。しかし、作品を通して、同じ疑問を持っている人がいる、共感してくれる人がいると知り、とても心強く感じました。

映像には現実の問題を描く力があります。「ジェンダーによる差別や偏見、不平等は自分には関係ない」と考えている人にも見てもらえるアニメーションを作り続けていきたいです。



取材を終えて

言葉を慎重に選びながらの丁寧な話しぶりと、芯の強さを感じさせる袴田さんの人柄がとにかく印象的でした。自分の考えを発信することは、勇気のいる行動です。しかし、ジェンダーによる差別や不平等は、誰もが公平に生きられる社会の実現を妨げます。世の中で起こっている問題をただ傍観するのではなく、自分ごととしてとらえる意識が大切なのではないかと感じます。

現在、袴田さんは、実在した人物をモデルに作品を制作中とのこと。次にどのような作品を生み出すのか注目していきたいです。



『ジョディ』



『陳腐な男』

令和7年度 男女共同参画の今を知る情報誌 『ねっとわあく』編集員募集

静岡県の男女共同参画やジェンダーについての
情報誌を一緒につくってみませんか？

これまでに取り上げたテーマ

アンコンシャス・バイアス、女性の起業、ワーク・ライフ・バランス、防災、おひとり様、夫婦別姓、LGBTQ (性の多様性)、リプロダクティブ・ヘルス／ライツなど

※『ねっとわあく』は静岡県の市町村役所や図書館ほかで配架しています

※バックナンバーはあざれあ図書室やWEBサイト『あざれあナビ』でお読みいただけます

仕事内容

『ねっとわあく』(年2回発行)の企画、編集会議、取材、原稿の作成・編集、発送

※男女共同参画の理解を深めるための研修有

応募条件

- ジェンダー問題に関心があり、男女共同参画の視点から企画を立てられること
- インターネットに接続されているパソコン環境が自宅にあり、メール送受信が可能であること
- ワードを使って文章作成ができること(校正など文章作成は職員がサポートします)
- 静岡県内在住で、研修・編集会議・発送作業に参加できること

※研修および編集会議は、原則あざれあで平日午後15時～16時程度実施予定

※会議は1回につきおおそ3時間の予定／時間帯や実施形態(オンライン)等変更の可能性有

※会議日程は編集員のスケジュールを確認し、その都度決定

※ねっとわあくバックナンバーを必ずお読みいただいたうえで御応募ください。

あざれあの
バックナンバーを
検索してみよう！

任 期

令和7年4月頃～令和8年3月

募集人数

若干名(県内全域から募集)

謝 金

編集会議の際に薄謝支払い(別途、会議や取材などの交通費を支給)

応募方法

応募用紙と課題作文をメールでお送りください。

●課題作文

以下のキーワードを参考に「あなたが考える男女共同参画の課題」について書いてください(1,000文字以内)
女らしさ、男らしさ、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)、家庭、結婚、家事、出産、育児、介護、老後、おひとり様、地域、防災、女性活躍、政治、職場、雇用、起業、氷河期世代、非正規雇用、パートナーシップ宣誓制度、LGBTQ (性の多様性)、選択的夫婦別姓、学校生活、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、性教育、ルッキズム、ジェンダー・ギャップ指数、SDGs、国際問題、多文化共生、人権

応募締切

令和7年3月30日(日)必着

提出先アドレス info@azarea-navi.jp

問合せ NPO法人あざれあ交流会議 事業課 054-250-8147(平日9時～18時)

詳細および応募用紙ダウンロード(WEBサイト『あざれあナビ』)

https://www.azarea-navi.jp/cyottoe/r7_nw/



あざれあ図書室にあるおすすめの本を紹介します！



『さらば、男性政治』

(三浦まり 岩波書店 2023年)

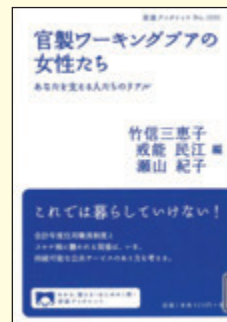
男性だけで営まれ、たまに女性の参入が許されても対等には扱われず、それが当たり前になっている現在の政治のあり方について、「男性政治」と説く著者。変わるべきは女性ではなく現在の権力構造だとし、女性議員が増えない現状やクオータ制などについて論じています。



『よくわかるスポーツとジェンダー』

(飯田貴子・熊安貴美江・来田享子//編著 ミネルヴァ書房 2018年)

性に関する考えは、スポーツにどのような影響を与えてきたのでしょうか。本書では歴史、教育、メディアなどさまざまな切り口から、スポーツにおける性に関わる人権問題をジェンダーの視点で解説し、なぜ、そのような問題が起こるのかを考えます。



『官製ワーキングプアの女性たち：あなたを支える人たちのリアル』

(竹信三恵子・戒能民江・瀬山紀子//編 岩波書店 2020年)

安定した職業という印象がある公務員。しかし、その多くが女性の「官製ワーキングプア」と呼ばれる非正規公務員たちであり、彼女らによって、役所の窓口や図書館などの公共サービスが担われています。本書では、その現状や問題点等を明らかにしています。

利用案内

貸出：図書・雑誌10冊、ビデオ・DVD4本(3週間)

※貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる本人確認書類をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。

開室時間：平日9:00～18:00、土日祝 9:00～17:00 休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日、年末年始
TEL:054-255-8763 FAX:054-255-8759

県民編集員の

編集後記

- ◆ 活動を通して、言葉を正しく伝えることを意識した1年でした。近年、表現による炎上やいざこざが絶えません。人間に生まれたからには、言葉を大切に生きていきたいです。自分を成長させてくれたこの機会に感謝！
- ◆ 昨年、長年着ていなかった服を整理し、処分しました。その際、単に「着ていない」の中に、着心地や似合わないなどさまざまな理由が絡み合っていたことに気づかされました。世の中の課題も、単純な善悪だけでなく、複雑なのだと感じています。物事の本質は、表面的な情報だけでは捉えきれない奥深さを持っているのかもしれません。
- ◆ 女性の健康課題、特に妊娠や避妊に関することについては、自分が井の中の蛙であったことを知り、驚きました。そして、そんな自分を少し残念に思いました。もっと自分から積極的に情報を得なくては。井戸から出るぞ！！
- ◆ 地域の課題をしくみづくりにより解決していく、ということには以前から興味がありました。今回、実際にそれに取り組んでいる人にお会いして、大いに刺激を受けましたし、考え方や取り組む手法についてもヒントを得られました。
- ◆ 誰もが生き生きと暮らせる社会を実現したい。編集活動を、皆さんに教えていただきながら進めました。まだまだ知らないこと、気づけていないこと、たくさんあります。もっと皆さんと繋がり、創って、育んでいきたい。成長したいです！
- ◆ 論語では「五十にして天命を知る」とありますが、私が天命を知るには一生かけても無理そうだと思うこのごろです。自分にできないことを考えるのではなく、まずは自分にできることを何をしたのかということを考えていこうと思います！



あざれあ女性相談



女性が抱える様々な悩みについて、
女性相談員が対応します。

054-272-7879

月・火・木・金曜日 9:00～16:00
水曜日 14:00～20:00
第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも、祝日・8/13～15、年末年始を除く
※つながらない場合は、少し時間をおいてかけ直してください。

DV その他暴力に関する相談(予約制面接相談)

月・木曜日 10:00～15:00
水曜日 14:00～19:00
※まずは電話相談におかけください

あざれあ 男性電話相談



生き方・家族・仕事・健康等の
悩みについて、
男性相談員が対応します。

054-272-7880

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

※つながらない場合は、少し時間をおいて
かけ直してください。

※第1・3土曜日が8/13～15、年末年始の場合、
次週の土曜日に実施します。

ふじのくに LGBT電話相談



性のあり方に関する悩みや
困りごとについて、御本人のほか、
家族、職場や学校関係者も相談できます。
専門相談員による相談です。
安心してお電話ください。

0120-279-585

第1火曜日、第3土曜日 18:00～22:00

しずおか女性相談チャット



静岡県男女共同参画課では、
チャットによる相談窓口
「しずおか女性相談チャット」を開設しています。
専門の女性の相談員が話を伺いますので、
安心して御相談ください。

利用対象 静岡県内に居住する方
相談内容 どんなことでも相談できます
(人間関係・生き方・健康・DV等)
相談時間 月曜日～金曜日 14:00～20:00
(祝日、8/13～15、年末年始を除く)

相談料 無料

<https://shizuoka-womansoudan.jp/>

※上記各相談窓口は、発行日時点のものです。詳細はホームページで御確認ください。

あざれあ貸会議室の御案内

静岡県男女共同参画センター「あざれあ」には、大小ホールをはじめ大小会議室、音楽室、茶室、調理や体操など
できる実習室など、さまざまな有料の貸施設があります。

詳しくは WEBサイト『あざれあナビ』まで



ねっとわあく

2025/3/14 Vol.83

『ねっとわあく』は年1～2回発行します。県内の男女共同参画センター、
市町役場、図書館などの公共施設で配布しています。『ねっとわあく』の
バックナンバーは、あざれあ図書室や静岡県男女共同参画ポータル
サイト『あざれあナビ』で閲覧できます。

あざれあナビ <https://www.azarea-navi.jp/>



ねっとわあく
バックナンバー



あざれあナビSNS

発行日/令和7年3月14日
企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1
TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085
編集員/天草美樹 河合雅子 工藤由佳
湖東朗 玉木良汰 松本朝子
印刷/日興美術株式会社